

「すーちゃんがんばりやさん」の執筆の思い



「頑張って」私たちはつい声をかけてしまいます。

「頑張ること」は素晴らしいことです。

そして、時に、この言葉は人の心を窮屈にさせてしまうものかもしれません。

その思いを大人向けの物語にして、ホームページに載せたところ、
遠く富山の経田さんが見て下さり、伝えた友人の森さんが感動して絵を描いて下さいました。
これは、福岡と富山、インターネットで繋がった、温かい心の交流の中で生まれた絵本です。

小さなすーちゃんは「頑張って」という大きな期待の中で、頑張ります。

いつのまにか「自分がどうしたいか」より「人にどう思われるか」で行動し、

いつのまにか「自分がどうなりたいか」より「人が自分に望む」姿に向かって走り続け、

いつのまにか「プロセス」よりも「結果」を大切にし、

頑張りすぎてしまいます。

そして、自分の心を守るための「鎧と兜」の重さでへたり込んでしまうのです。

「ぶちっ」涙があふれ、そんな自分に気づいた時から

小さなすーちゃんのシャボン玉ファンタジー、こころの旅が始まります。

多くの出会いの中で、自分の感情に気づき

勝ち負けではなく、プロセスを楽しむことを

黒か白かではなく、中庸を大切にすることを

頑張るときは頑張り、休む時は休む、体の声を聴くことを

人を大切にするには、自分の心の声を大切にすることを

知ります。

「するべきことは息だけ」

食べ物や水さえ「自分が食べたい」の気持ちがあればおいしくはないのです。

「～すべき」から「～したいへ」

そのことをシャボン玉の旅は教えてくれます。

そして、人生は「思い通りにならないから面白い」

「こんなことも、こんなときも、こんなひもあるさ」と

失敗も、惨めさも、悔しさも、苦しさも、悲しさも

受け入れることの大切さを感じていきます。

シャボン玉ファンタジーを終えたすーちゃんは

「大丈夫、きっとうまくいく。失敗したら、それも私

今、ここで、できることから始めればいい」と

私は私らしく生きていくのです。



「ありがとう」「ごめんなさい」「わからないから教えて、助けて」を合言葉に

「一人で頑張る」のではなく、「人に支えられて、人を支えて、頑張る」のです。

高杉美稚子